

ISSN 2188-0239

Literary Arts and Representation



文芸表象論集



Vol.1 March 2014

目 次

論 文

ドイツ語 Hexameter 詩行における Amphibrach 語脚

..... 松波 烈... 1

翻 訳

訳者解説

.....[1]

『標本』・『蠅人形館』

..... グスタフ・マイリンク 中岡 翔子 訳....[3]

編集後記

かねてより企画されていたものの、諸般の事情によりこれまで企画のままにとどまり、ややもするとその企画としてすら忘れられかねなかった私たちの論文集が、ここに『文芸表象論文集』として仕上がったことは、それが決して盤石の権威を主張しうる規模のものではないとはいえ、喜ばしいことです。その喜ばしい第一号に、執筆者・査読者・編集者いずれかの形で寄与していただいた方々に、まずは厚くお礼申し上げます。

かつて、今となつては言わば「昔気質」と評して差し支えないある文学者の口から、アメリカ合衆国における研究のありようを端的に伝える言葉として、「出版せよ、さもなくば死すべし **publish or perish**」という、いささか脅迫的な響きのある寸言を耳にした際、率直に言って極めて不愉快な思いにつつまれ、それに続く件の文学者の話については一切記憶に残っていません。それゆえ、攻撃的な響きの矛先をぐるりとひねり返すがごとく、また別のある文学者が、p音で頭韻を合わせたこの寸言に、やはり短く「そして紙屑が猖獗を極める **and rubbish will prevail**」と付け加えたと知ったときは、さもありませんと苦笑したものです。個人的といえどもあまりにも個人的なこうした事柄を、いまここで徒然に挿話として書き記しているかにみえましようが、全く以て喜ばしくはないことながら、業績のアピールに気がはやり、紙屑を大金として流通させようとした（といったニュアンスで、一般には報道されている）人々が巷を騒がせていること、そして、意図せざる形であるとはいえ、私たちの論文集がそうした時期に刊行の運びとなったこと、こうしたことをなんらかの形で刻み込んでおくために、いまここでそれを書き付けました。

編集後記というものの常として、あくまでも短く、それを読むものの目を長くは引き止めないことを目指して、ここにあってアフォリズムのようにして付け加えれば、私たちは大いに自らの研究を形にしようと奮起すべきですが、形にだけでことたれりとしてはならない、といったところでしょうか。今回寄稿された論文の背後に、まだ必ずしもはっきりとした輪郭を結んではいないながらも、やがて少しずつ姿をあらわす幾筋かの議論の糸が伸びており、他方でまた、寄稿者とは違い、その尽力が見えにくい査読者・編集者の存在があつてこそこの『文芸表象論文集』です。ひとたびこうして形となった以上は、その形を保ち第二号へつなぎ、さらに研究を励むことによる議論の質の向上をはかることが、私たちの目標となります。今後とも皆さんの積極的な参加を期待します。（玉井 潤野）

執筆者紹介（執筆順）

松波 烈（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士前期課程）

中岡 翔子（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程）

文芸表象論集 第1号

2014年3月31日発行

発行者 文芸表象会

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
吉田南総合館東棟 105室

印刷者 大学生協京都事業連合
ブックプリントセンター

〒606-8106 京都市左京区高野玉岡町 23-3